

代表質問

代表質問は、新年度の予算を審議する議会において会派を代表して行う質問で、市長の市政執行方針および教育長の教育行政執行方針について、その所信を質するものです。

今回の定例会では5つの会派全てが代表質問を行いました。ここでは、質問に対する答弁のうち、一人につき一項目を掲載しております。

海洋再生可能エネルギーと

海洋都市構想によるまちづくり

市政クラブ 吉田 崇仁

質問 海洋発電など環境に配慮したエネルギーの開発は、国際・水産海洋都市構想に貢献すると思うが、いかがか。

答弁 東日本大震災に伴う原発事故以来、海洋エネルギーの利用促進が必要と考えている。道は津軽海峡等で基礎調査を行う予定であり、本市でも潮流等の実測データが必要なことから、汐首岬沖の流速調査経費を計上している。将来的には、国際水産・海洋都市構想の新たな柱として、その実現に向け進めたい。(市長)

新駅・現駅間のアクセス

民主市民ネット 福島 恭二

質問 北海道新幹線新駅の建設にあたり、現駅へのアクセスなど、利便性についての要望は生かされたか。

答弁 市は沿線自治体等と、JR北海道へ新幹線とリレー列車の対面乗り換えが可能なホームの整備などを要請してきた。今般、新函館開業時には同一ホームでの乗り換えが可能であることが明らかになったが、札幌延伸後は対面乗り換えは難しいことから、新幹線利用者の利便性向上について、今後もJR北海道と話をしていきたい。(市長)

幼児教育の無償化の効果

公明党 茂木 修

質問 政府が少子化対策として進めようとしている幼児教育の無償化の効果について、市長の認識を伺いたい。

答弁 幼児教育の無償化は子育て世帯の負担軽減につながることであり、少子化対策への効果も一定程度期待できるが、まずは地域経済の活性化を図るとともに、働きやすい環境の整備、いわゆるワーク・ライフ・バランスを推進するなど、子育て世代の子どもを産み、育てようという意識を醸成していくことが肝要であると考えている。(市長)

地域経済の活性化対策

市民クラブ 小野沢 猛史

質問 函館アリーナの建設工事は、景気対策の一つとして、地元業者に発注すべきと考えますが、市長の認識を伺いたい。

答弁 建設工事等の発注にあたっては、地元業者の育成や雇用の促進、地域経済の活性化などの観点から、地元業者への発注を基本としており、業者選定にあたっては、特殊性のある工事等で市内に本店がある業者以外の業者を参加させる場合もあるが、基本的には地元業者への発注を優先し、受注機会の確保を図ってきているところである。(市長)

高齢者や障がい者が安心して暮らせるまちづくり

日本共産党 市戸 ゆたか

質問 介護施設の整備状況等はどうか。福祉コミュニティエリアの施設整備にあたり、関係団体等の意見は聞くのか。

答弁 入所待機者の要介護度など、施設入所の緊急度等を勘案し、必要な介護施設整備を進め、待機者解消を図っていく。福祉コミュニティエリアの施設整備にあたっては、今後、障がい者団体等の意見を聞く場も設けたいと考えており、整備構想案についてもさまざまな手法で広く意見を求めている。(市長)

個人質問

個人質問は、市の行政全般にわたって、市長をはじめとする執行機関に対し事務の執行の状況および将来に対する方針等について所信を質し、あるいは報告、説明を求め、または疑問を質するものです。

今回の定例会では13名の議員が個人質問を行いました。ここでは、質問に対する答弁のうち、一人につき一項目を掲載しております。

子ども医療費助成について

市政クラブ 松尾 正寿

質問 市町村で助成内容に格差が生じていることから、全道・全国市長会等に国策でやるよう提言してはどうか。

答弁 市町村の医療助成事業には、北海道の補助金があるが、その内容は、就学前の児童は入院・通院、小学生は、入院のみが補助対象であり、市町村によって、助成内容に差が生じている状況にあるので、北海道に対して、北海道市長会を通じて補助対象の拡大を要望するとともに、国にも働きかけていきたいと考えている。(子ども未来部長)

介護者が集える場所の設置

民主市民ネット 斉藤 佐知子

質問 高齢者サロンやボランティアセンターの中で、介護者カフェなど、介護者が集える場所を設置してはどうか。

答弁 高齢者サロンは、高齢者の交流と憩いの場として、まちなかの居場所を提供するもので、世代間交流や生涯学習、健康づくりの講習会など各種の事業を想定している。設備や機能は、今後、検討を行うところであり、カフェを設置して介護している家族が憩う場づくりについても、その中で検討していきたいと考えている。(保健福祉部長)

体罰やいじめ問題について

公明党 松宮 健治

質問 教育長としてどのような取り組みをされているのか。

答弁 よりよい人間関係のもとで、一人ひとりを大切にしたい指導が行われていれば、体罰やいじめ問題は起きにくいと考えているが、一方で問題行動などには毅然とした態度で指導に当たるとともに、落ち着いた学校生活には必要なので、先生方が萎縮せず自信を持って日々の指導に当たれるよう、教育委員会としても危機感や緊張感を持ちながら、教育施策を推進していきたいと考えている。(教育長)